

平成22年度ユニバーサルデザイン（UD）教育の取組

1 学校名	佐賀市立神野小学校		
2 所在地	佐賀市神野西二丁目4番8号		
3 校長名	江口 美好		
4 学級数 児童生徒数	24学級 752人	5 実施学年 児童生徒数	1年 125人 2年 133人 3年 114人 4年 142人 5年 99人 6年 139人
6 取組のねらい	<p>・わたしたちの身の回りにはさまざまな人々が生活していることを知り、障害のある人たちや高齢者の人たちの生活や思いを理解しようとすることができる。</p> <p>・高齢者の人たちや障害のある人たち、地域に住むさまざまな人たちに自分たちができることを考え、思いやりを持って実践できる。</p> <p>(1) 「自分たちができるボランティア」</p> <p>高齢者疑似体験や車いす体験、身近にあるUDの視点から生活日用品を見つめ直す活動を通して、誰もが過ごしやすい環境について考えるとともに、今自分にできることは何かということなどについて考える。</p> <p>(2) 「盲学校との交流」</p> <p>特別支援学校（盲学校）との交流及び共同学習を通し、お互いの良さ・一人一人がかけがえのない存在であることを認め、自他共に大切にしようという態度を育てるとともに、相手を尊重する心や思いやりの心を育む。</p>		
7 取組の実際	<p>(1) 「自分たちができるボランティア」</p> <p>佐賀市社会福祉協議会及び「クローバーの会」の協力を得て、</p> <ul style="list-style-type: none"> ・福祉講話：ボランティア活動の意義や活動内容等 ・高齢者疑似体験：サポーター等の装具をつけて80歳位で現れる体の変化を体験 ・アイマスク体験：アイマスクをつけて階段を歩き、視覚に障害がある場合の不自由さを体験 		

・車いす体験：車いすに実際に乗ってみることで、日常生活上の不便さに気づき、また、介助の仕方を体験を学習した。



アイマスク体験



車いす体験



高齢者疑似体験

体験後、それぞれ感想を書き、

- ・壁新聞にまとめる。
- ・継続して調べ学習をする。
- ・実際にまちに出て、点字ブロックなどを確認する。

などの活動を行った。

【児童の感想】

- ・目が見えないで一人で歩くと壁にぶつかってしまって、とても不安だった。もし目の見えない人を見かけたら声をかけようと思いました。それと、ケチャップやビールの缶に点字がついていることを初めて知りました。ほかにも、牛乳やリンスとシャンプーの見方もわかりました。（アイマスク体験）
- ・ぼくは、車いすに乗って、傾けさせたりスピードを出されたりされたら、とても怖かったです。動かすときは慎重にやりました。（車いす体験）
- ・わたしは、この体験で一番困ったのは、手が動かさにくかったことです。本のページをめくったり、はしで豆をつかんだりするのが難しかったです。高齢者の方々は大変だなと思いました。（高齢者疑似体験）



(2) 「盲学校との交流」

6月11日に、全校で盲学校の児童との出会いの集いを行い、全校の児童と盲学校の児童との顔合わせと歓迎会を行った。

その後、盲学校の交流学年（2・3・5・6年・ひばり・こすもす学級）ごとに交流を行った。

2・3学期は、各学年学期1回程度の交流及び共同学習を行った。

学期	期日	学年	内容
1学期	6月11日	全校 2.3.5.6年 ひばり・こすもす	出会いの集い ・ 歓迎全校集会 ・ 学年・学級での交流
2学期	10月14日 10月26日 11月18日 11月18日 12月3日	2年 6年 ひばり・こすもす 5年 5年	・ 算数・国語 ・ 学年集会 ・ 調理学習 ・ エコバッグ作り ・ キッズマート
3学期	1月20日 1月27日 2月16日 2月22日	2年 ひばり・こすもす 5年 6年	・ 音楽・生活 ・ 鬼のお面作り ・ 英語活動・音楽 ・ ぼたもち会



出会いの集い



出会いの集い

8 取組の成果と課題

○日常生活の中で、点字ブロックの設置に気づいたり、高齢者の方に声をかけたりする場面がみられ、児童にUDについての意識が芽生えた。

○盲学校での学習の様子や拡大教科書等の教材・教具を見ることで、互いの違いを認め合い、相手を尊重する心を育むきっかけとなった。

●実際にまち中に出て、UDに関する指導を行うための時間確保に苦慮している。

